

令和4年度部局運営方針実績

生涯学習部

運営方針

子どもの育ち、市民の学び、スポーツ・文化活動の推進

市民一人ひとりが生きがいを持って、いきいきと創造的に暮らせる社会を実現するために、市民がつながり、地域がつながる場をつくり、子どもの育ち、市民の学び、スポーツ・文化活動を推進します。

【重点施策とめざす方向】

社会教育の活性化とスポーツ・文化の振興

社会教育課題の解決に向け、公民館をはじめ、家庭教育、子ども体験活動など、社会教育の活性化を進めるとともに、加賀田公民館と加賀田小学校の複合化に向けた機運醸成をはかりつつ、整備に関する基本計画を策定します。

また、シティマラソン大会をはじめとしたスポーツの振興を推進するとともに、スポーツ施設の機能を維持しつつ、散在し老朽化が進む施設の再編整備を検討します。

さらに、文化会館及びスポーツ施設は、指定管理者を通じて効果的かつ効率的に管理運営を行い、各分野において様々な生涯学習関連事業を展開するとともに、市民交流センターの管理運営を市直営により行い、センター機能のあり方等を検討します。



【実績】

目標どおり達成

8つの公民館で主催講座の活性化を図るとともに、加賀田公民館と加賀田小学校の複合化に向けた機運を醸成し、整備に関する基本計画を策定しました。

また、シティマラソン大会を開催するとともに、スポーツ施設の機能維持に努めながら、市内に散在し老朽化が進むスポーツ施設の再編整備のための調査・検討を行いました。

さらに、文化会館及びスポーツ施設は、指定管理者を通じて効果的かつ効率的に管理運営を行い、各分野において様々な生涯学習関連事業を展開しました。なお、市民交流センターは指定管理から市直営の体制に戻し、Wi-Fi環境の整備など利便性の向上や効率的な施設活用を図るとともに、センター機能のあり方について検討しました。

子どもを守り育む環境づくりの推進

待機児童を出すことなく、放課後児童会の安定的な運営を行うとともに、放課後子ども教室等の充実を図りながら、子どもたちの安全で安心な居場所の確保に努めます。

また、夏季休業中の預かり事業の制度化に向けて、試行的に実施します。

さらに、青少年健全育成関係団体やPTAなどの取り組みを支援するとともに、それらの団体との連携を進めながら、子どもの体験活動等を充実します。



目標どおり達成

放課後児童会については、1,123名の児童を受け入れ、31クラス体制で運営し、待機児童を出すことなく運営するとともに、支援員の処遇改善に取り組みました。また、民間法人による夏季休業中の預かり事業への支援を試行的に実施し、5小学校区から20名の児童が利用しました。

放課後子ども教室については、延べ68回、999人の参加となりました。

青少年健全育成関係団体やPTAなどとの連携については、子ども向けの体験活動や地域環境向上のための啓発活動の実施や街頭パトロールなどへの協力を求め、地域や家庭の教育力を高める取組みを支援しました。

歴史文化遺産の保護・活用の推進

令和元年度に策定した河内長野市文化財保存活用地域計画に基づいて、指定文化財の保存、継承のために補助事業の適正執行を図ります。

また、日本遺産関連事業（調査研究、普及啓発、情報発信）を実施することで、本市の魅力発信、次世代を担う人材の育成、市外への魅力発信を行います。

この他、市内の年中行事や伝統行事を調査研究し、学校教育や社会教育の教材として活用できる河内長野版『歳時記』の編集・作成を進めます。



目標どおり達成

国史跡金剛寺境内の災害復旧工事及び大玄閣の修理工事、重要文化財岩湧寺多宝塔の保存修理は予定どおり完了しました。

また、日本遺産「女人高野」の調査研究や講演会・講座を実施することで、本市の魅力発信、市外への情報発信のほか、市内での普及啓発に努めました。

この他、『歳時記』にかかる調査・研究については、コロナ禍の地域の伝統行事・祭りの中止等により現地調査は遅れたものの、聴き取り等による情報収集や活用方策の検討を進めたほか、デジタル版歳時記（子ども用）を作成しました。

図書館サービスの推進

第4次子ども読書活動推進計画を推進するとともに、ICTを活用した図書館サービス（電子書籍等）の充実、音と映像コーナーをリニューアルした「木のぬくもりを感じる集いの場」の整備、郷土資料の活用（修復および古絵図のデジタル化とWEB上での公開）ほか、図書館サービスの充実を進めます。

また、英語村構想事業と連携した、英語多読資料の整備・普及を行い、英語多読シンポジウムを開催します。



目標どおり達成

第4次子ども読書活動推進計画を関係各課との連携のもと、計画的に推進しました。

電子書籍の充実・利用促進やマイナンバーカード・交通系ICカードによる貸出しなどを行うとともに、音と映像コーナーを計画通り「こもれび広場」としてリニューアルし、認知症カフェや英語多読ひろばの開催など、交流の場としての活用を進めました。

郷土歴史資料を活用し、修復や古絵図のデジタル化を行ったほか、講座の開催やYouTubeでの配信も行い、普及啓発を図りました。

英語多読資料を259点整備し（蔵書総数2,083点）、年間13,041点の貸出しがありました。また、英語多読シンポジウムを11月に開催し、英語多読の普及に努め、交流の機会を提供しました。